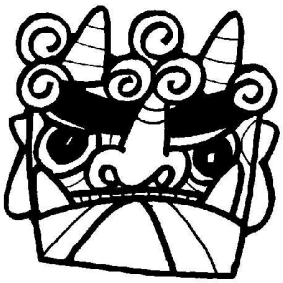
総持寺と私(No4)

総持寺の祭事に観音祭(かんのんまつり)というものがあります。これは神社の祭礼の前夜祭のようなものですが，この本祭りに「ごうらい」と呼ばれる御輿(みこし)の露払いの役をする者が現れます。わらじばきで赤茶けた麻布(あさぬの)の衣装をつけて鬼の面をかぶり，身長を超える長さの丸太ん棒を引きずりながら「オーー！」というううなり声をあげて祭礼の行列を先導するのです。

この「ごうらい」が子どものころこわかったあ。本当にこわかった。いや今でも心の片隅にその恐怖のかけらが残っていそうな気がします。なぜこわかったのか。鬼の面や丸太ん棒もそれだけで十分こわいのですが，実は親たちは子どもたちに物心つくかつかないうちにすでにすり込み(洗脳)をしていたのです。「ごうらい」という世にもおそろしい怪物がいて年に１回だけ祭りの日に現れて行儀の悪い子をこらしめるのだと。

幼い子は自分の思いがかなわないとだだをこねます。路上にひっくりかえって足をばたつかせながら思いを通そうとする子もいます。そんな時当時の親がたしなめる言葉は決まっていました。「そんなこと言うとったら**ごうらい**やくるぞ」　これでたいていの子は泣きやみました。祭りの縁日は子どもたちにとって楽しみで待ち遠しいものでした。しかし「ごうらい」はつい暴走しそうになる子どもの開放感に適度にブレーキをかける働きもありました。



教育評論家は「こわい者を意図的につくって子どもの道徳観を育ててはいけない」と言いました。しかし，各地に残る鬼の化身(秋田のなまはげや皆月のあまめはぎなど)は明らかに先人が創った教育神であり，誤った方向へのエネルギーの抑止力になっていたにちがいありません。

残念なことに最近の保育園や低学年の子どもたちはといえば，このおそろしいはずの「ごうらい」に向かって「ごうちゃーん」と呼んで追っかけていって，まるでウルトラマンかポケモン怪獣にでも出会ったかのように喜々として足下にまとわりつく…らしいのです。

今この子たちのわがままや暴走を制するのは誰なんでしょう。

ごうらいもごうらいじゃ　権威をもて！　かつてのように。

私の心の中には今も「恐ろしいごうらい」が住んでいます。　　合掌！